

特109
575



始



特109

575

鷄治療院主 獸醫士 渡邊壽

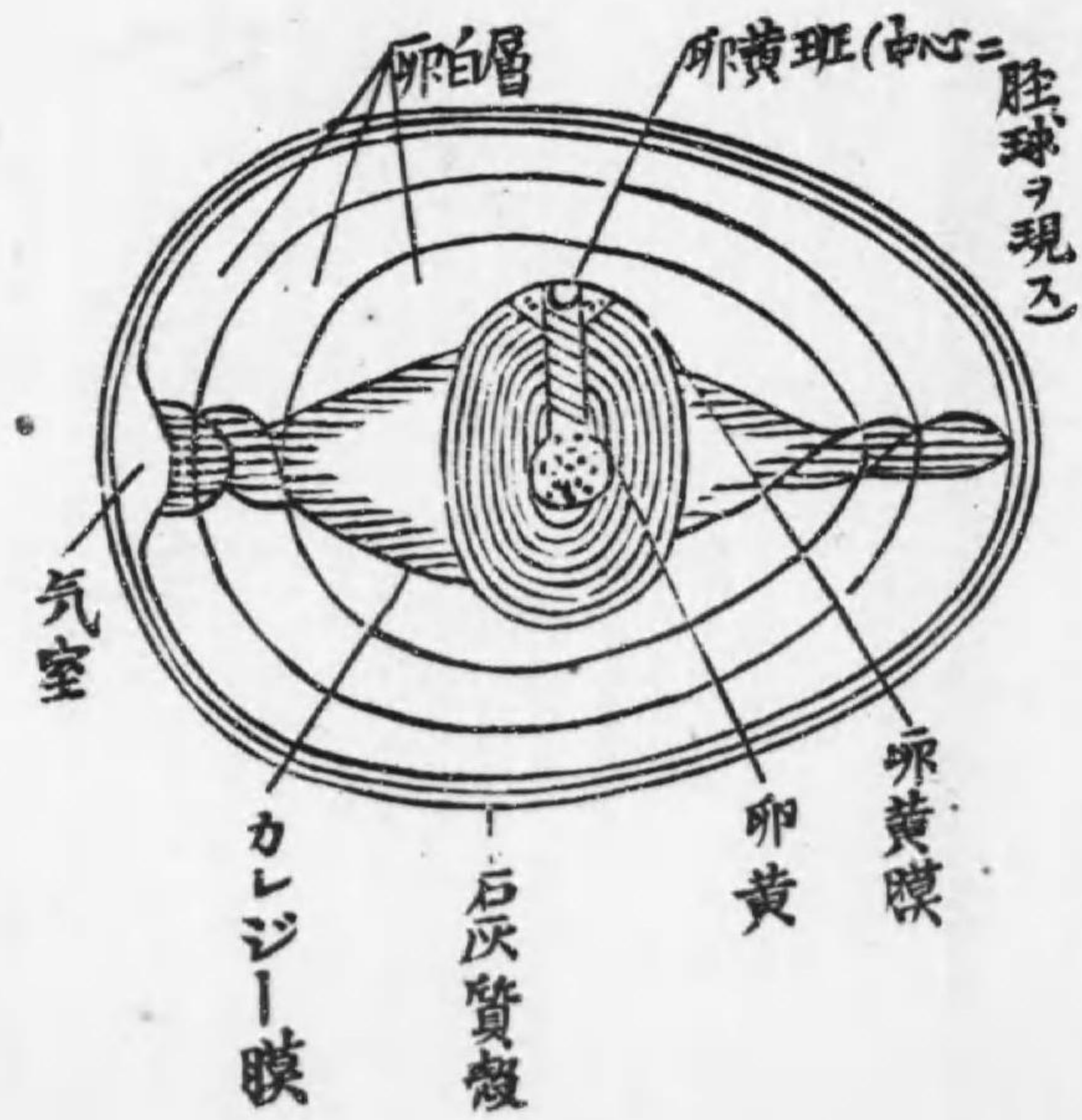
實用養鷄法 全

濱松 濱松家畜醫院發行

~~115
270~~

持109
575

稱名之面斷橫卵鷄



稱名之部外体鷄



自叙

(1)

自叙

予元來淺學不文にして行文流暢を缺くのみならず誤謬なきにあらざる可きも機を俟つて更に校訂せんことを
 本書は予が多年の經驗と諸獸醫學博士並に學士或は養鶏家等の説を参照として作れるものにして其の
 名稱の如く養鶏實用而已を叙述し實地家の金城鐵壁たるを得ざるや必然なりと雖も畜産の改良と俱に
 此業の普及目下の處急務たるに係はらず本邦に於て斯類の著書なきにあらざるも單に一般實用的養鶏法

5. 11. 2
 内交

を論じたる書を視ず故に不備を顧みず副産業の發展
並に輸入鶏卵の減少を計り國家經濟を致す故を以て
上梓せし所以にして敢て裨益なきにあらざる可し

大正五年丙辰秋初

渡邊壽吉識

目 次

第一章 鶏の分類	第一節 日本種	三	第二節 鶏の種類	三
	第二節 印度種	六	第三節 支那種	四
	第三節 伊太利種	八	第四節 西班牙種	七
	第五節 英吉利種	一	第五節 波蘭種	〇
	第七節 亞米利加種	五	第六節 佛蘭西種	一
	第九節 亞米利加種	一	第七節 バンダム種	八
第二章 鶏の蕃殖				
第一節 種鶏の撰擇	二	第二節 人工孵化	二	
第二節 天然孵化	二	第三節 人工孵化	一	
第三節 不熟卵の拔除	七	第四節 雛の期節	六	
第四節 育雛	三	第五節 雛の雌雄鑑別	〇	

第三節	呼吸器病	五六	第一節	鼻腔加答兒	五六
第二節	氣管支加答兒	五七	第二節	消化不良	五七
第四節	消化器病	五七	第三節	下痢	五八
第五節	嚙食病	五八	第一節	輸卵管炎症	五九
第二節	生殖器病	六〇	第二節	運動器病	六一
第一節	卵趾症	六一	第三節	脚痿病	六一
第三節	捲趾病	六一	第四節	蹴球挫傷	六二
第二節	癩病	六二			
第五節	肉冠凍傷	六二			

番外 掲告並ニ廣告

第五節	配偶	三四	第六節	産卵	三六
第二章	鶏の飼養管理				
第一節	雛の飼養	三七	第二節	成鶏の飼養	三九
第三節	飼料の調理	四一	第四節	放飼	四三
第五節	鶏舎の清潔法	四三	第六節	運動場	四四
第七節	鶏舎の肥育法	四四	第八節	悪癖矯正法	四四
第九節	肥育法	四六	第十節	去勢	四八
第十二節	強壯法	四九			
第四章	病鶏治療法				
第一節	傳染病	五一	第一節	鶏虎列拉	五一
第二節	ルイブ	五二	第二節	炭疽病	五三
第三節	寄生生物	五三	第三節	張嘴病	五三
第二節	白癬	五四	第三節	疥癬	五四

第一章
鷄

實用養鶏法

全

附濱松病鶏治療院主 獸醫士 渡邊壽吉 著

第一節 鶏の分類

にはざり 鶏は家禽の一種で亞細亞の東部就中馬鈴半島に原
さん 産し遂に全世界に擴延分布したので我國は神代時代
せいそく より棲息せり鶏は脊柱動物鳥類地禽類鶉科屬で野
けい 鶏に亞細亞野鶏印度野鶏錫蘭野鶏爪哇野鶏有り現今

は鶏一般に改良せられて産卵数も増して三十八年に一羽一年平均産卵数七十四箇で大正元年に同じく八十三箇で日本内の産卵は内國消費に對し不十分で年々支那から百五十萬圓以上輸入されるので日本養鶏家数は三百萬餘で飼養鶏數二千五百萬羽位で産卵數八億餘個にして其の價格二千萬圓位なり故に將來益々産卵力を進め支那からの輸卵無く是非共國內で生産するやうにしなければならむ次第で有る

第二節 鶏の種類

鶏の種類にはさりしゆるいの明細めいさいは家禽分類書かきんぶんるいしよに有るから些こには其の要点ようてんのみを擧ぐ

第一 日本種

(イ) 地鶏 体强健産卵七、八十個雄の体重五百匁内外
で雌は体重三百匁内外なり

(ロ) 長尾鶏 愛翫鶏なり

(ハ) 義曳鶏

法 鷄 養 用 實 (4)

(ニ) 蜀鷄(鷄鷄) 雄の体重一貫五百匁なり

(ホ) 暹羅鷄 雄の体重一貫五百匁なり

第二支那種

(イ) コーチン種

(一) バフコーチン

(二) パートリツチコーチン

(三) 三枚冠パートリツチコーチン

(四) 白色コーチン

(五) 黒色コーチン

(六) 絹羽コーチン

(七) 藍灰色コーチン

(八) 名古屋コーチン

雄で体重一貫三百匁内外名古屋コーチン雄の体

重七、八百匁より一貫匁雌で五、六百匁乃至八

百匁内外なり体强健産卵數百顆内外なり

(ロ) ラングシヤン種 雄で体重一貫二百匁位体强健

(5) 法 鷄 養 用 實

柵飼に適す

第三 印度種

(イ) ブラマ種

(一) 淡色ブラマ

(二) 暗色ブラマ

(三) パフブラマ

雄で體重一貫三、四百匁雌で一貫匁内外體強壯産卵百三十乃至百五十顆なり

第四 西班牙種

(イ) スパニツシユ種

(一) 白色スパニツシユ

(二) 白面黒色スパニツシユ

(三) 白色スパニツシユ

雄で体重九百匁雌で七八百匁で愛翫用で産卵百六、七十顆體強壯柵飼放飼用

(ロ) ミノルカ 産卵百八十箇體強壯柵飼放飼兩用

- (一) 黑色ミノルカ
- (二) 白色ミノルカ
- (三) 薔薇冠黒色ミノルカ
- (ハ) アンタルシヤン種 体強壯産卵百九十顆柵飼用
- 第五 伊太利種
- (イ) レグホーン種
- (一) 白色レグホーン
- (二) 褐色レグホーン

- (三) 黒色レグホーン
- (四) バフレグホーン
- (五) 郭公レグホーン
- (六) バイルレグホーン
- (七) 鴨翼レグホーン
- (八) 薔薇冠バフレグホン
- (九) 薔薇冠白色レグホン
- (十) 薔薇冠褐色レグホン

雄おすで体重たいじう七百もんのめす多た雌めすは五百もんのめす多た位い産卵さんらん二百もんのめす四よ五ご十じゅう
顆体かたい強健きやうけん放飼ほうし柵飼さくがひとす

第六 波蘭種

(イ) ポーランド種

- (一) 白毛冠はくもうかん黒色くしよくポーランド
- (二) 銀色ぎんしよくポーランド
- (三) 金色きんしよくポーランド
- (四) 白色はくしよくポーランド

(五) 黒色くしよくポーランド

雄おすの体重たいじう五百もんのめす乃ないし至し八百もんのめす多た雌めすで三百もんのめす多た内ない外がい産卵さんらん百ひゃく
六、七十ろくにん顆体かたい弱じやくく愛翫あいがん鶏けいなり

第七 英吉利種

(イ) ドーキング 雄おすの体重たいじう九百もんのめす多た乃ないし至し一貫かん多た位い雌めす八はち
百ひゃく多たなり

(ロ) ハンボルク種

(一) 鷹班ようはんハンボルク

法 鷄 養 用 實 (12)

- (二) 銀色鷹班ハンボルク
- (三) 金色鷹班ハンボルク
- (四) 爛班ハンボルク
- (五) 金色爛班ハンボルク
- (六) 銀色爛班ハンボルク
- (七) 黒色ハンボルク
- (八) 白色ハンボルク
- (九) パフハンボルク

(13) 法 鷄 養 用 實

- (ハ) オーピングトン種
- (一) 黒色オーピングトン
- (二) 薔薇冠黒色オーピングトン
- (三) 白色オーピングトン
- (四) 薔薇冠白色オーピングトン
- (五) パフオーピングトン

雄で五六百匁雌で四百匁位産卵二百四五十顆
 体虚弱飼用

雄の体重一貫乃至一貫二百匁雌八九百匁体强健なり

(ニ) ゲーム種

(ホ) レッドキヤップ種

(ヘ) スコッチグレー種

第八 佛蘭西種

(イ) ウーダン 雄の体重八百匁雌六百匁産卵百六七十
個体强健で放飼柵飼用なり

(ロ) クレヴクールラブレツシユ

(ハ) ブレダラブレツシユ

(ニ) ラマンスコールテバツテ

(ホ) ファヴロール

第九 亞米利加種

(イ) プリマウスロツク

(一) 横班プリマウスロツク

(二) 三枚冠横班プリマウスロツク

法 鶏 養 用 實 (16)

- (三) 白色ブリマウスロツク
- (四) バフブリマウスロツク
- (五) パートリツヂブリマウスロツク
雄の体重一貫匁以上雌八九百匁体强健放飼柵飼用

(ロ) ワイアンドツト種

- (一) 銀色ワイアンドツト
- (二) 白色ワイアンドツト

(17) 法 鶏 養 用 實

- (三) 黒色ワイアンドツト
- (四) 銀色鷹班ワイアンドツト
- (五) バフパートリツヂワイアンドツト
- (六) コロンビアンワイアンドツト
雄一貫匁内外六九百匁雌産卵百五十個内外体强健なり

- (ハ) ドミニツク種
- (ニ) ジャヴァ種

法 鷄 養 用 實 (18)

(ホ) ホゼルシー種

(ヘ) ロードアイランドレッド種

(ト) ウォンター種

(チ) ダンヴァ種

(リ) バックスカウンチー種

(ヌ) 白色ロンダイグ種

第十 バンダム種

(イ) バンダム種 愛翫用

(ロ) 矮鷄種

(一) 白色矮鷄

(二) 桂矮鷄

(三) 黒色矮鷄

(四) 狸々矮鷄

(五) 碁石矮鷄

(六) 源平矮鷄

(七) 藍灰色矮鷄

(19) 法 鷄 養 用 實

(八) 長尾矮鶏ちよびちやほ

(九) 鶉矮鶏うづらちやほ

(ハ) セブライトバンダム種しゆ

(ニ) 北京バンダタ種しゆ

第二章 鶏の蕃殖

第一節 種鷄の撰擇

種鷄選擇は養鷄家の經驗經濟地勢目的に由り各々其の種類を異にす故に適宜とす

第二節 孵 化

第一 天然孵化

天然孵化とは母鷄の蟄巢せる時抱卵する事なり

一、母鷄 性質温順忍耐力強く怯懦ならず体重五六百匁内外年齢二三歳位で經驗の有る鷄を選ぶ而し

て經驗の有る者は巢前に立てれば頻りに巢邊を迂迴して後脛を斜に曲げて徐々に巢に入る而れ共此れに反し一氣に飛躍し巢に入るは無經驗の鶏なり

二、抱卵數 母鶏の大卵の大小等に依り同一ならず先づ五百匁前後の母鶏に十五六匁の卵十二顆位で大なる母鶏は十五乃至十七八顆位を抱かす

三、母鶏の給餌 母鶏は毎日一回午前中に巢より出して約二十分間柵内に放つか籠に伏せ玄米小麥粟黍

の如き穀類と動物飼料に青菜を充分に與ふ小麥を少量づゝ常に與へれば軟便を防ぐ故卵を汚す事なく又清水石灰質も要す、給餌の時間二十分を超へば卵は冷却する故甚だ不良である酷寒の季節は二十分間でも卵は冷却するから斯る場合には毛布の如きもので給餌時間中卵を蔽ふ必要が有る給餌は一日一回だから可成滋養に富める物を充分給すべし

四、母鶏に對する其の他の注意 砂浴必要故柵又は

籠内に砂土を與ふるが宜しい羽虫寄生すれば砂土中に硫黄末か除虫菊の粉末を混すれば驅除となる母鷄抱卵中蟄巢の念を喪ふ事有り此れ疾病恐怖闘争氣候變化の爲なり故に注意して抱卵を進むべし若し到底抱卵せざる時は速やかに他の母鷄に抱かすべし此の時卵は一旦冷却するも六時間以内に抱卵すれば孵化作用有り而し一旦冷却した卵を抱かすには華氏百〇五度の温湯中に卅分或は一時間許浸漬して温めた後

抱かしむるは良なり斯くして孵出したる内には多少の遅速有り故に數顆一齊せる事出來ず故に一羽孵出せば飼料を巢に與へ全部出殻する迄母鷄は可成安産すべし否らざれば母鷄は雛と共に巢を離る若し抱卵中卵の汚れたる時は靜かに微温湯で洗ひ抱卵座汚れた時は取り換へる

五、抱卵座 母鷄の抱卵する場所は可成靜隱で空氣の流通よく日光直射せざる所とす又他鷄を近けず抱

卵座は藁乾草蔴類で箱又籠に敷き中央凹形となす巢箱は高さ一尺五寸内外方一尺二寸位の箱に底を付け前方に蓋を蝶番で付け天井板の全面側壁後壁の板は下より二三寸の所迄指頭大の孔を多数穿ち通氣便ならしめ土間に置くも最良なり

第二 人工孵化

孵卵器で孵化するので往古埃及及支那等に行なはれ千七百七十七年佛國ボンネメイン氏發明し次でカン

テロ氏孵卵器と名付け英米二國で製作せり此の孵卵器の事は孵卵器説明書に有る故些に略す

第三 不熟卵の拔除

卵は一定の温度を與ふれば天然人工を問はず十八日を経れば微聲を發し十九日乃至二十日で卵殻内に呼吸を始め次で出殻す卵例令新鮮なりと雖も無精のもの有る故抱卵全部孵化する事稀なり故に不熟卵拔除の必要有り其の方法次の如し

第一期檢卵 抱卵後四五日に行ふ即ち夜間燈火に透視し卵の中央部に血球点有り此れより四方に網状をなす血線有るは孵化す而し血線なく血珠の中央黒点或は血線環状を認むるは孵化する事なり
第二期檢卵 九十日に行ひ此時血線夥し増加し卵の一部に暗所を認むるは經過良而し第一期と同一状態は孵化せず

第三期檢卵 水盤様の器に華氏百〇五度内外の温湯

を盛り卵を其中に入れ鈍端を上にし浮びしは良而し沈むは腐敗なり浮びし卵の蠢動の大小に由り活潑不活潑を見る事を得
夜間卵の鈍端を燈火に透視し氣胞に凹凸有り且つ蠢動を認むるは良好なり

第四 孵化の季節

最良の季節は春次に秋なり冬は保育困難で周密の注意を要するも此の期の雛は体軀長大堅實なり此期の

雛は六月頃一般の産卵漸く減ずる時盛に産卵す

第三節 育 雛

育雛に天然育雛人工育雛有り此の育雛は養鶏家の最も注意し且つ趣味有り此れは雛の飼養に記入す

第四節 雛の雌雄鑑別

雛の雌雄を鑑別するは養鶏經濟上必要である其の方法次の如し

第一期 孵化後三日以内の鑑別標準

(イ) 頭部大は雄小は雌

(ロ) 嘴の大は雄小は雌

(ハ) 体の長大は雄小は雌

(ニ) 冠の後部廣きは雄狭きは雌

(ホ) 脛太く趾長大は雄此れに反するは雌

(ヘ) 臀部稍々方形は雄圓形は雌

(ト) 雛を捕へ聲の太く濁るは雄小に清きは雌

(チ) 歩むに脛趾を高く舉げ歩調大なるは雄之に反する

は雌

第二期 孵化後三週前後の鑑別標準

(リ) 体重大は雄軽小は雌

(ヌ) 頭部長く大は雄之に反すは雌

(ル) 肩部儼めしく張るは雄之に反すは雌

(ヲ) 尾根上昇は雄之に反すは雌

(ワ) 主翼羽のみ生ずるは雄主翼副翼の羽毛同時に生ぜしは雌

(カ) 舉動活潑に左右に掻き撥くは雄後方に掻くは雌

第三期 孵化後五週前後の鑑別標準

(ヨ) 肩羽疎にして早く生せしは雄整然と夥多なるは雌

(タ) 嚙嚢部に羽毛を生せざるは雄此れに反すは雌

(レ) 單冠の雄は冠豊厚で齒裂深く色濃く光澤あり後

部特に充實隆起す此れに反すは雌

(ソ) 尾羽早く整ふは雌

(ツ) 体比較的傾斜せるは雄此れに反すは雌

以上の如し

第五節 配 偶

良好の子孫を得るには雄雌親鶏の配偶に注意すべし
其の順次の如し

- 一、脊体軀の長き雌には脊体軀の短き雄
- 二、体大きく脚長き雄には体充實脚短き雌
- 三、脛羽毛冠鬚等は遺傳力強き故注意すべし
- 四、脛趾の羽毛就中趾の羽毛減退する故注意すべし

- 五、壯き雄に老ひたる雌を配した仔は老たる雄を若き雌に配したより体質強健
- 六、或部の發達を圖るには雌雄共其の部の發達せるを選ぶべし而し他の部は減退す
- 七、老ひたる鶏の仔は体短實で若鶏の仔は細長なり体重同一なるも脊の長き方は大なる仔を産み短圓なる方は縮小な仔を産す

九、バフ色しよくらんかいしよくさう藍灰色しよくさう等の羽毛うもは減退げんたいす故濃厚色ゆへのうこうしよくの雄おす

を選えらめ羽色うしよくは雄おすに似にる

十、血族間けつぞくかんの配偶はいぐうは良否りょうひ共遺傳でんかくじつ確實じつじつなり
以上いじょうの如ごとし

第六節 産 卵

産卵さんらんは飼かひ方種類かたしゆるいに依より異ことにす先まづ其そは養鶏家ようけいかの經けい験けんに由よる而しかし三十羽はの雌めすに一雄ゆうとすべし

第三章 鶏の飼養管理

第一節 雛の飼養

雛は出殻後大低二十四時間乃至四十八時間で消化機能完成する故三十六時間前後に飼料を給す其の時の良好の物は穀實在胡麻麵麩等の粉末で三四日経れば全粒を與ふも宜し而し全粒の穀類は一度水に浸漬して乾かして與ふれば消化宜しき雛の時の煉餌は魚肉動物質昆蟲青菜等で今次に示す如し

一、淡水魚就中泥鰌の焼きたるもの

二、鶏卵の黄味の煮沸したもの

三、具類は牡蠣の外は宜しからず

四、大魚の内臓の煮汁とす

五、鳥獸肉及其の内臓物細判を克く煮沸して其の汁等なり

六、飼料給與の回数に始め少量宛六七回に與ふ成育に従ひ其量を増し回数を減す又夜間燈下に一回與ふれば成育を促す特に寒冷の候に必要なり

七、料水は清潔なるを絶へず與ふ

八、孵化後八週後を成鶏とす

以上の如し

第二節 成鶏の飼養

鶏の飼料は玄米粃粟黍小麦大麥裸麥燕麥青菜等で飲くべからざるものは木炭石灰質動物飼料なり飼料は其の良否を問はず一時に多量與ふべからず必ず時を定め一日三回或は二回とすべし而し朝は煉飼を可

成與へ他は粒餌を與ふ

一、種卵を採取する時季は小麦粟少量の玄米粃等を浸水し克く乾して與ふ

二、春期最も産卵する時故脂肪に富める飼料を避けよ

三、梅雨期動物飼料の硬き煉餌に辛味あるものを少量宛與ふ又煉餌には多量の穀を混じ與へ鶏に充分運動なさせしめ柵飼は青菜を高く吊し飛躍せ

しむべし

四、夏期脂肪澱粉の少きものを與へ適當の動物飼料を與へ青菜は絶へず與ふべし

五、秋期換羽期に當る故動物質飼料多量に鹽分を少量宛與ふ

六、冬季米米糠馬鈴薯甘藷に辛味を少量宛與ふ以上の如し

第三節 飼料の調理

左に一般飼料調理を記す

一、浸水 穀粒を水中に浸漬し將に發芽萌出せん時

取り充分乾燥して與ふ

二、煉餌 大麥小麥玉蜀黍燕麥麩粉米糠麩粉米等を

魚鳥肉類の煮汁で適當に煉るなり而し粘力毫も

無きものとす動物質の煮汁は魚鳥肉内臟物細剉

し煮熟して充分冷却し用ふ

三、青菜 甘藍萵苣蕪菁菜服クローバーオーチャード

グラス繁蕪細菜の青草豌豆小豆の嫩芽馬鈴薯甘
諸苹果等を可成細剉して與ふ

以上の如し

第四節 放飼

放飼は鶏の種類地勢に依り養鶏家の的宜にす

第五節 鶏舎の清潔法

此れは鶏舎の何如並に地勢に依り異にす故に養鶏家
の經驗に由て清潔法を行ふ

第六節 運動場

地勢並に種類に由り養鶏家の経済的になすべし

第七節 鶏舎

養鶏家経済的になすべし

第八節 悪癖矯正法

鶏には種々悪癖有共其最も普通なるは食卵癖並に羽毛相食癖である此の悪癖を傳染する故注意すべし
一食卵癖 雌に多發し其の原因は石灰質尠なく給せ

しか卵殻軟き結果誤つて之を破壊し啄みたる時形のまゝなる卵殻を啄食せしめた時なり矯正には卵殻を穿孔し卵白を吸ひ出し胡椒蕃椒の如き辛辣を孔より送入し此れに安母尼亞水を加へ華楝林を以て孔を塞ぎ悪癖の鶏に啄食せしむか模造卵數顆を入れ置くべし

二羽毛相食癖 屢々見る所で其の原因は清水青菜の給與不充分なる時狹隘なる鶏舎に飼養し運動拘束

なる時或は頸部等に附着せる虱を互に啄まんとし
羽毛を食した時に發す此の矯正は青菜肉類貝類骨
粉を外量に與へ運動場の土に穀粒を混じ鶏に堀り
喰はしむ二三週間他鶏と隔離し芥子を酢に捏り他
鶏の頸部の羽を短く刈り此れに塗るか或は飼料に
鹽を混じて與ふ
以上の如し

第九節 肥 育 法

普通の肥育は伏籠又は箱に鶏を收容し微暗所に置き
飲水の給與を絶對に廢止し粉末とせる穀實類を半流
動体に煉り與へ煮熟した馬鈴薯甘藷の類を併せ給し
日没前に玉蜀黍を與ふ然る時は一週間乃至十日で肥
満す然し強飼法有り鶏の喙食に任せず人工を以て強
制的に良飼を鶏の喙囊中に送入し速に肥育す其れ護
謨管を鶏の食道に挿入に此れより半流動体の飼料を
喙囊中に入れ而して体を容れ得べき小箱に幽閉し其

の箱の底板後部約二三寸除去し以て脱糞に當つべし
而して給與の回数を一日四五回とし夜間一回行ふを
良しとす今一法は小麦粉大麥粉を硬き粘り餌とし此
れを小脂狐に製し一寸位に切り以て口より嚙囊中に
送入充滿すべし

第十節 去勢

去勢法は養鶏去勢書有るを以て略す只其の種類に依
り肉量を早く増さしむ目的に行ひ其の法は經驗有る

養鶏家又は獸醫に行ひもらうべし

第十一節 強壯法

鶏平素飼養管理に注意し其の虚弱のものは強壯液
を與ふ

第四章
病鷄治療法

法鷄養用實 (50)

第一節 傳染病

第一 鷄 虎 列 拉

病鷄は倦怠沈鬱し步履確實ならず左右の翼垂下し頸を俛れ身を偃め食欲廢絶し渴甚しき故水を飲む事限りなし初期は硫黄華を水に和したる如き黄綠色の軟便を下痢す後には白色の粘液を漏し臭氣甚しく終に瀉物稀薄となり粘調性なく米泔汁の様になり泡沫血液を混じり口内は白色透明の液を満し肉冠の周縁

暗色し漸時側方に傾き遂に腫れて暗色となり昏睡し
斃る其の経過三日位なり注意して他鷄傳染を防ぐべ
し而して薬を與ふ

第二 ループ

本病は最も恐るべき病で鼻孔より漏出せる液は初め
透明で漸次不透明となり一種の悪臭を放ち又内叱に
は泡沫を浮ぶ眼圍は腫起し重症は眼瞼全く閉じ鼻漏
乾固し鼻孔を閉ぎ呼吸困難となり往々顔面の兩側腫

張し明を失す食を取る事能はず斃る故に薬を與ふ

第三 炭 疽

本病は劇烈にして人畜を襲ふ事有り病鷄肉冠黒色又
暗赤色に變じ皮扶及び口内帶青赤色の腫易又暗赤色
の斑点を生じ結膜腫起し婁部壞疽し羽毛脫落下痢増
劇瘡癩し斃る本病は血清注射にて療するのみ

第一節 寄 生 病

第一 張 嘴 病

本病は氣管内に寄生する虫を以て嘴張り嘔吐する
状態をなす故に薬を與ふ

第二 白 癬

本病は頭部の皮扶就中肉冠肉鬚等を浸し漸次頸脊に
蔓延し婁部白色又黄色乾痂を生じ毛根浸害され羽
毛光澤を失し痂下侵蝕し久しければ羸瘦して斃る故
に薬を與ふ

第三 病 癬

本病は主に脚及び頭部並肉冠を浸し脚を浸せば鱗屑
に糠疹を生じ時として肥厚し一ヶ月以上に瀾れば鱗
片脱離し脚羽あるものは羽毛捲縮し痂中に埋没せら
れ婁部は灰白又帶褐色を呈し病脚に痂皮堆積し肥大
變形し趾の下面の皮扶龜裂し裂孔深くなり内部を浸
す頭部は肉冠の基根白色の班點あり婁部は柔軟なる
鱗片様上皮の痂を被むる而して痂扶を剝離せば褐色
を呈す二週間乃至一ヶ月に亘れば冠の根部著しく肥

厚し病曼延せば冠及び嘴邊の羽毛光澤を失ひ羽端變曲し遂に捲縮消失す冠の表面は數多の小結節を有し凹凸不齊で白色糖様の鱗片を附着す療法は藥を與ふ

第三節 呼吸器病

第一 鼻腔加答兒

鼻孔より稀薄の水様又粘調液を漏し眼瞼腫起し重症では顔面の兩側腫起し往々ループ症を併發す病鷄は乾燥温暖なる舍内に移し滋養ある飼料を給し又水に

硼酸を加へ温湯にて鼻腔及び顔面洗滌す

第二 氣管支加答兒

咽喉部に嘈雜音を發し咳嗽をなす初期は乾燥温暖な場所に飼ふべし重病は藥を與ふ

第三 ビソップ

乾燥せる角質鱗片の舌を被覆し呼吸せんとし常に嘴を開く漸次治す

第四節 消化病器

第一 消化不良

前胃炎症を發し胃液分泌歇み食物の消化不良となり
鶏 捲怠食を厭ひ僅柔軟飼料を食し漸次瘦削す療法
は可成淡泊で消化し易きを與へ飲料水の給與を減じ
青菜を與ふ重病は藥を與ふ

第二 嚙嚢食滯

嚙嚢内の蓄積過度で嚙嚢部膨大し壓すれば硬く鶏は
氣力を失し肉冠色褪せる素嚢を柔み軟げた後靜穩で

第三 下痢

溫暖な所に置き三四時間經て通痢有れば數時間置く
通痢なくば反復す而し經過悪くば素嚢の上部七八分
截開し内容物を出し微温湯で洗ひ縫合し施術後廿四
時間絶食し後軟かき食物を漸次與ふ而し創口治せざ
れば飲水せず青菜を與ふ又手術前に藥を與ても治す

病鶏稀薄水様の糞汁で通痢し重病は食慾減少し煩渴
飲を貪り体力衰へ斃る冷濕不良飲食物が原因なり

故に薬を與ふ

第五節 殖生器病

第一 輸卵管炎症

本症は異状卵を排泄し卵殻柔軟なるは輸卵管の下部穀内に被膜なく卵の發育不完全なるは輸卵管の中央部の炎症なく又卵白崩壊し卵形一定せざるは管全部發炎なり療法は石灰質を多量に與へ而して薬を與ふ

第二 秘卵症

病鶏頭胸を直立し歩行の時尾羽を地上に曳く療法は薬を與ふ

第六節 運動器病

第一 捲趾病

趾捲縮し歩行出來ず療法温湯中に芥子を入れ趾を浸し刷毛で磨り後拭ひて竹又木片の細條を三又狀にし趾に縛着する事連日とするか薬を與ふ

第二 脚痿病

幼鷄に發し体を支へがたし煉餌を與へ而て藥を與ふ

第三 儂麻質斯

脚の運動自由ならず故に藥を與ふ

第四 蹴球挫傷

初め蹴球にイボ狀の小突起漸次増大し終に潰易となり跛行す療法初期には藥を與ふれば治すも末期は治癒容易ならず

第五 肉冠凍傷

寒氣に肉冠凍傷し色赤黒色に變じ鷄衰弱す故に藥を與ふ病鷄を治療せんごせば重狀にならざる内に藥を與ふべし又傳染病は豫防すべし
さて鷄の疾病甚だ多し故に一々説明する事難事の爲
其の主要だけ前述の如し

實用養鷄法 終り

215
770

大正五年十月卅一日印刷
大正五年十一月三日發行

正價金貳拾錢

靜岡縣濱松市早馬區六番地
發行者兼 渡邊壽吉

靜岡縣濱松市下後道七十三番地
印刷者 藤田登喜藏

靜岡縣濱松市下後道七十三番地
印刷所 朝日堂印刷所

養鷄の病狀疑問並に使用藥品等は往復端書又は返信印紙
封入照會の節は明瞭に通報可仕候

濱松市早馬六番地(濱松病鷄治療院)

大正五年丙辰初秋 院主 渡邊壽吉 敬白

牛馬羊豚 一般診斷治療

山羊鷄犬猫 最新狂犬病鑑定並豫防注射、急婁迅速出張診斷治療
家畜かめごめの藥、家畜ほうつくごめ之藥、家畜またぐさりごめ藥、家畜ないら之藥、病鷄治療藥

入院隨意 附屬 濱松病鷄治療院

養鶏の病狀疑問並に使用藥品等は往復端書又は返信印紙
封入照會の節は明瞭に通報可仕候

大正五年丙辰初秋 院主 渡邊 壽吉 敬白

濱松市早馬六番地 濱松病鶏治療院

牛馬羊豚一級診断治療

最新狂犬病鑑定並に防疫注射等急要迅速出張診断治療
家畜かめごとの薬、家畜はらう病、つとめ、ごめ、家畜ま
たぐさりごめ、家畜ないら之薬、病鶏治療薬

入院隨意 附屬 濱松病鶏治療院

大正五年十月卅一日印刷

大正五年十一月三日發行

正價金貳拾錢

静岡縣濱松市早馬區六番地

著者兼發行者 渡邊 壽吉

静岡縣濱松市下後道七十三番地

印刷者 藤田 登喜藏

静岡縣濱松市下後道七十三番地

印刷所 朝日堂印刷所

115
170

終

